

## 第三部理工系博士人材育成分科会（第26期・第6回/WG第10回）議事要旨

日時： 2026年4月6日（月） 12:00-13:00

場所： ウェブ会議

出席者： 伊藤由佳理、内田誠一、奥村幸子、尾崎由紀子、三瓶政一、関谷毅、高木周、常行真司、堀利栄、宮崎恵子、岸村顕広、田村圭子、関根千津

欠席者： 沖大幹、北川尚美、下田吉之

（敬称略）

### 内容

#### （1）シンポの内容確認と準備について（資料2）

- 3/23 幹事会にてシンポジウム開催が承認された。
- シンポジウム WG にてポスターを制作中（4/24 公開予定）。学会会議 HP が更新されるので前日 4/23（木）までにポスターファイルを事務局に提出する。
- 集客は、まずは当分科会委員より、第三部各委員会の委員には積極的に参加してもらおうようアナウンスする。また、第三部委員の所属する組織にも参加をよびかけてもらう。適宜学協会后援を依頼する。登壇者の加茂氏が、関係先に情報拡散くださる。
- 「審議活動の充実強化」に係る経費の補助として、ポスター等の制作（10万円まで）、事務補助員（4名まで）、公開シンポ登壇者への旅費支給（会員・連携会員は旅費+手当）
- 関谷委員より Zoom ウェビナーの録画を使用して YouTube 配信を行うことが提案され、会場での事前テストの実施も調整することとなった。
- パネルディスカッションへの分科会メンバーの参加者として関谷委員が推薦され、了承された。
- シンポジウム当日 6/10（水）11:30-12:30 分科会（第11回：ハイブリッド）を開催予定。また、同日 17:30-20:00 懇親会（新国立美術館内レストラン）を開催。
- 懇親会については、講演者と分科会委員で開催することが確認され、参加者数を把握して予約する必要がある、出欠の確認を早めに行う。

#### （2）記録の状況報告と今後の進め方（資料3、資料4）

- 3月中旬にて III, IV 章の原稿作成・収集を行った（資料3）。各セクション毎に「課題と施策」という書き方に統一したい。これまでに比べてより掘り下げた所にハイライトする。統一的な編集を行い、I, II 章の原稿を5月末目標で作成する。
- III, IV 章の編集を奥村委員が担当し、I, II 章の原稿は奥村委員と内田委員が5月末をめどに作成する。
- 現状の構成は下記のとおり。

<目次>

- I. 日本における博士人材の現状
  1. 1990年代と現在の比較
  2. 日本と諸外国との比較
  3. 問題となる現状の整理・検討
- II. 博士課程で育成される能力と博士人材
  1. 博士課程で育成される能力
  2. 博士人材とは
  3. 博士人材に関する現状分析
  4. 博士人材が活躍する社会を実現するには
- III. 大学院博士課程の課題と施策
  1. 大学院課程の現状と課題
  2. 大学院課程における施策・方策
- IV. 博士人材活躍の場の課題と施策
  1. アカデミア（学术界：大学、研究機関、学協会）
  2. 産業界
  3. 行政機関・教育機関など
- V. 分野毎の博士人材を取り巻く現状と課題・取り組み例（各分野別委員会毎）
- VI. 博士人材がより活躍する社会を目指して（まとめ）

- V章は4/10の第三部部会で原稿依頼をアナウンスする（資料4）。分野毎の違いを記録し、公表することが重要なので、各分野別委員会には、エビデンスに基づく詳細な内容は求めず、分野別委員長の「所感」を依頼しすることとする。「所感」文書の要請となるように資料4を改訂して提出する。
- 分野別委員会は複数分野にまたがる委員会があるため、分野で一律一括りにするのは難しい。したがって、分野の状況を一括りにまとめたり、網羅することは求めず、可能な範囲で状況を共有することとし、4/10の部会でこの点を口頭でも説明する。
- シンポジウムの内容を記録に反映させ、6月末取りまとめ、7月中旬を目標に提出する。

(3) その他

なし

<配布資料>

資料1 第三部理工系博士人材育成分科会第6回資料

資料2 博士人材シンポジウム (260610) コンテンツ\_ver3

資料3 博士人材レポート案 20260406

資料4 博士人材分野別レポート依頼 20260406

以上

(作成：関根)